

玉井小だより

平成28年12月1日
大玉村立玉井小学校

TEL (48) 3302

発行者 校長 佐藤一男

「おおたま学園オープンスクール」

11月25日(金)、玉井小で「おおたま学園オープンスクール」が行われました。ご承知のように本村では、村内の全ての幼稚園、小学校、中学校が「おおたま学園コミュニティ・スクール」として、保護者や地域のみなさまとの横のつながりと幼小中の縦のつながりを大切にした教育を推進しています。そのおおたま学園の取り組みの一つとして今年度からこのオープンスクールが始まりました。

大山幼稚園、玉井幼稚園、大山小学校、玉井小学校、そして大玉中学校の5校園の先生方が一堂に会して、授業を見て研究協議を行いました。すでに大山小は1学期に、大玉中は9月に行いました。本校のオープンスクールでは、6つの授業を公開し、授業を通して子供たちがどのように変容したのか、授業のよかった点、見習うべき点はどこか等について話し合いました。それぞれの公開授業には、授業プランを立てる段階から村の教育委員会から委嘱されたアドバイザーの先生や福島県教育委員会の指導主事の先生等にかかわっていただき、指導をいただいています。教師が自ら教育実践を外部に向けてオープンにし、自分の授業について振り返るという作業は、授業の質を高めていくためにはとても大切なことだと考えています。

子供たちも、他の学校の先生方の前で、自分たちの考えたことを発表したり、話し合ったりすることはとても貴重な経験で、大きな自信につながったと思っています。



【2年 道徳の授業】



【サポート2 国語科の授業】



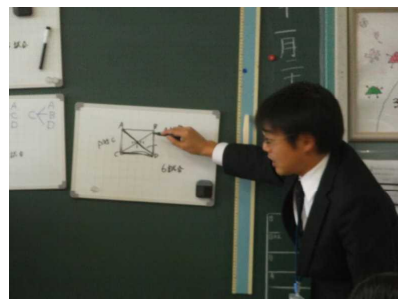
【3年 国語科の授業】



【4年 理科の授業】



【5年 音楽科の授業】



【6年 算数科の授業】

〈裏へ続きます〉

6年生のボランティア活動

11月29日(火)、6年生が幼稚園の子供たちを楽しませようとボランティア活動に取り組みました。

「いつも隣にいる玉井幼稚園の子供たちに何かしてあげたい。」という思いで、準備をし、練習してきました。大きな本を読んであげるグループ、王様ジャンケンや塗り絵、紙飛行機づくりをやってあげるグループもありました。

幼稚園の子供たちは少し緊張気味でしたが、6年生は自信に満ちたとてもいい笑顔をしていました。6年生の感想から一人ひとりの成長が伝わってきます。

○ ぼくは幼稚園生とクロスワードパズルをして、いっぱいふれ合いました。ぼくには弟がいるから、何とかかなると思っていたけど、予想以上に難しく、とても困りました。本気で伝えようとしないと、伝わらなくて、戸惑いました。ぼくはサッカーをやっていますが、話しかけられず、友達ができないことがありました。ぼくは幼稚園生に教わったことがあります。それは恥ずかしがらずに話しかけるということです。(6年 鈴木海心)



【園児に絵本の読み聞かせをしました】

○ 僕は「自分たちが幼稚園生にボランティアをしてあげるのではなく、自分たちがボランティアをさせてもらったんだな。」と思いました。ボランティアというのはやらせてもらおうと、とてもいい気持ちになるし、いい勉強になり、とてもいい経験だったと思います。(6年 菊田恵冬)

○ 幼稚園のボランティアをしているとき、部屋の周りを見ていると、小さいときはあんなに広く見えた自分の教室が、小さく見えました。自分にもこんなに小さいときがあったのかと懐かしく思いました。ぬり絵を上手にぬっていた子をほめてあげると、すごくかわいい笑顔でこっちを振り向いてくれました。そのとき、「私にもこんなときがあったのか・・・。」とうれしくなりました。



【一緒に王様ジャンケンをしました】

久しぶりの幼稚園は、何も変わってなくて、変わったのは自分だと思いました。中学校に行っても、この小学校が小さく見えていくのかなと、さみしく思いました。でも、ボランティアは楽しかったです。(6年 渡邊陽菜)

人のために自分から動き、認められる経験を重ねることによって、「自分は役に立つんだ」「自分の行動には意味があるんだ」という自己有用感が育まれます。そして、そのような感情が次の勉強や新たな行動への意欲につながるのだと思います。学校は全てを教えることはできませんが、そのきっかけをつくってやることはできます。これからもボランティア活動等、自ら社会とかかわる活動を充実していきたいと考えています。